

# NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第54号(201401)

発行 竹田 幸男



新年を迎え、今年は寝屋川映像フェスティバル開催の年、新たな思いで、  
いい作品作りに取り組みましょう。

## 例会の窓

平成25年12月例会

日 時 平成25年12月13日(金)

13:30~16:30

場 所 寝屋川市民活動センター

4階 ワーキングスペース

出席者：新井 天野 石田 小林 佐伯 竹下 竹田 谷 田淵(50音順・  
敬称略) 欠席者：1名

例会次第

1 . 各会員の最近の活動状況・情報交換

2 . 報告・連絡・協議事項

( 1 ) 12月13日午前中の講習会の結果

- ・映像寝屋川から2名、同好会から5名参加
- ・今回はテープから取り込んで編集を学ぶ。テープへの書き出しを含め編集過程を一通り身につけてもらえたと思う。

( 2 ) 撮影会の結果

- ・11人(同好会から4人)が参加して、好天に恵まれ、良い映像が撮れたと思われる。

( 3 ) 映像協会忘年会の結果

- ・今まで最大の19人が参加し、賑わった。持ち寄りの景品も、じゃんけんで盛り上がった。
- ・映像同好会から忘年会のプロジェクトチームの一員として佐伯さんが加わることに決定した。

( 4 ) 映像フェスティバルの準備

- ・来年5月31日(土曜日)なので、1月には、そろそろ候補作品を見せて頂きたい。
- ・3月初めには作品を完成できるようにお願いします。

( 5 ) 第3回文化連盟展

- ・来年5月25日。
- ・映像協会は30分の時間をもらった。4作ぐらいは出したい。作品は7分以下、最大8分。

( 6 ) 同好会ビデオ作品発表会

- ・平成26年秋～平成27年春。

3 . 会員の当面する問題点質疑応答

4 . 映写・合評

( 1 ) 谷さん 大自然のパノラマがまっている立山 7分

- ・日付は消したほうがいい。タイトルも長いのでは、という意見もあったが、「立山」という名前は、この作品内容には必要。
- ・最後のおどけている人物は、はずした方がいいのでは。
- ・夕陽の静止画映像に、細かい点が入っているのが気になる。
- ・一部の画面の文字が短いので4秒は続けたい(速度をおとす方法もある)。

( 2 ) 小林さん 服部緑地(日本民家集落博物館) 9分

- ・場面ごとに合った音楽を付けている努力を買いたい。
- ・古民家の映像がもうすこし欲しかった。
- ・ナレーションがあればいい。
- ・ズーミング、パンニングが途中で段のつく所を改善したい。

(3) 小林さん ダンスパーティ 9分

- ・三脚を使用して撮影され、安定している。
- ・パーティ行事の幹事なので撮影と掛け持ちで苦労された、とのこと。
- ・年齢の高い方が多い中、きれいに踊られる姿が感動的、という意見。
- ・全編が長い(70分)ものを、中断して映写された。開会から終わりまでをバランス良く縮めて見やすい映写時間に編集したのを見たい。

(4) 新井さん 囲碁将棋づくりの会

- ・新たな場面を加えられている。ご本人は記録作品として作られたとのこと。

(5) 佐伯さん しんちゃん 有馬へいく 2分12秒

- ・佐伯さんは 今日、編集講習を受けられ、その中で、この作品を完成された。この感覚を忘れないで続けて欲しい。

5. 来月の開催日 1月10日 (金)

- ・がんこ 11時40分から13時30分
- ・終了後ワーキングスペースへ移動して例会を行う。

6. 次回のカメラ当番 (谷さん)

お知らせ：本号から、号数の後の発行日を示す数字は、従来の直前の例会日の数字から、発行年月を示す数字に変更します。理由はニュースなどの季節感に合わせるためです。



## アキレス腱を切って思ったこと

谷 弘子

9月末 朝5時頃、2階から降りる最後の階段を踏み外してしまいました。「痛い！」と思わず大きな声を出しました。

打撲だと思い杖を使ってバスで病院へ。診断結果は、アキレス腱が切れて1.5cmぐらい離れているとのこと。ショックで、その後の会話はあまり覚えていません。診察後午後1時過ぎに手術がきまりました。

部分麻酔の注射が痛かったのですが、信頼しているお医者さんでしたので安心して手術を受けることができました。

手術後、松葉杖で帰るのですが、使ったことがないので後ろにこけそうになりかけたりしたので使い方を教えて頂いてから、車で無事に家まで帰ることが

できました。

この日から家族の世話になる生活がはじまりました。私はギブスをつけた左足をかばいながら、食事、トイレまでの往復など不自由な生活です。松葉杖を使うと体重をゆだねるためか、両脇も両手も痛いので、タオルを使ったりして工夫しました。

10月からのスケジュールは、すべてキャンセル。友人との約束も理由を言ってお断りをしました。本当に残念でした。

数日後、友人が家にきて一緒に行くはずだった美術館でのお土産を頂きながらおしゃべり。やっと気分転換ができました。又、手間暇かけずに食べられるような品々を皆様から頂き感謝しています。

ある友人からは、「リハビリ ゆっくり ゆっくり」と描かれた心温まる絵手紙が届き、本当に嬉しかったです。こういうときにこそ、友人の思いやりが有り難かったです。

ボランティアでオカリナ演奏をしている叔母からは岩手のお土産を。ハイキングの友人からは、大きな九度山柿を頂きました（重いのにたくさん有り難う）。

また、「紅葉を見たいでしょう」と誘って頂き、車に乗せてもらったのドライブ。とっても嬉しかったです。紅葉の写真も松葉杖を使いながら撮影することができました。

皆さんがやさしく気にかけて頂いたおかげで、とっても幸せな日々を送ることができました。素敵な友人に恵まれ幸せ者です。また、励ましのメールで撮影された写真をたくさん添付していただきました。動けない私にとってそれを見るのも楽しみの一つでした。とても慰められました。

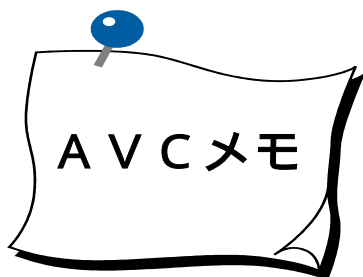
自慢ととられるかもしれませんが、嬉しかったので書いてみました。逆の立場で私はこれほどの思いやりができるのかしらと反省するばかりです。

毎年楽しみの孫の運動会は、主人が撮影したビデオを編集して楽しみました。孫が来るたびに、足大丈夫？と聞いてくれます。小学生の孫は私が怪我をしたと連絡したら電話口で泣いていたそうです。

幼稚園の孫は「怪我をしてしまったら しゃーない しゃーない」と言うのでみんなで大笑いしました。どうもテレビでのセリフを覚えて言ったようです。

12月初めに片方の松葉杖もとれて、やっと両足で歩けるようになりました。むくみも大分とれつつありますが、これからが大変かも。朝起きると足のつっぱり感がありカチカチになっています。ストレッチを始めているのですが、急には、よくなりません。焦る気持ちをおさえ、リハビリが続きます。

もうすぐ春がきます。その頃には、ハイキングや旅行に行けるのを楽しみにしています。



## 「自発光」のテレビ！

竹田 幸男

13年末、パナソニックとソニーが、12年6月から進めていた有機ELパネルの共同開発を打ち切って、提携を解消するとの報道がありました。期待していただけにがっかりです。

今後、両社とも、大型有機ELパネルの開発はそれぞれ独自に進めていくが、当面、高精細テレビについては、足元で需要の伸びている4k液晶パネルに注力する、ということです。開発が進まなかったのはコストと寿命の問題があったようです。韓国の2社が有機ELテレビをすでに発売して商品化しています。日本に先行した、と胸を張っていたようですが、ネットでは良品率（不良率ではない）が1%、という噂も流れ、価格も高いことなどから市場は広がっていないようです。

また、パナソニックは昨年、プラズマパネルの生産を終了しました。有機EL、プラズマに共通するのは「自発光」というキーワードです。これは映像、画像を構成する「画素」が自ら発光する（光を出す）、ということです。画素は、自ら赤、緑、青の色をそれぞれ出すことが出来ます。

曾てのCRT（ブラウン管）も自発光です。また商品化はされませんでした。SEDというパネルも自発光です。

この対極にあるのが「液晶」です。液晶は自ら光を出しません。光を透過する程度を変化させるだけです。色づけはカラーフィルターで行います。液晶テレビが明るいのは、後ろから冷陰極放電管やLEDで照明するからです。現在は画面の周囲に置かれた光源からアクリル製の導光板中を反射して伝わった光が液晶を照明するような構造になっています。

液晶の弱みは正面では明るく、正面からの角度が大きくなる（横にそれる）に従って明るさが暗くなります。また光の透過度の変化も遅いので、動くものがちらつきやすくなります。また、最も明るい場合と、最も暗い場合の明るさの差（コントラストとか、ダイナミックレンジという用語があります）も、自発光のものに劣ります。

今はこれらの欠点を解消する技術も進んだので、かなり改善してきましたが、自発光のものに比べて、どうしても差は残っています。

こういう次第で、今、市場には4kテレビが出初めていますが、これは液晶です。まだ放送も始まらず、市場に再生できる映像源も無い今、フルに生かせるようになる頃にはもっと良い性能のものが出てくると思われ、高価な液晶の4kテレビを先行して買うのは勇気の要ることです。

当面「自発光」のテレビ・モニターを買える当ての無くなった今、「他発光？」のテレビやモニターに囲まれて映像生活を送らなければならないのか、と落ち込んでいるこの頃です。 ■